

土曜塾

座かんさい 第14回「土曜塾」レポート

本保 基人

2009.5.23(土)

金沢で生まれ、京都で学生生活を過ごし、建築の勉強をし、坂倉に入りました。お見せした写真は、岐阜の家(1983)、高松の家(1984)、芦屋市立図書館(1985)、国立オリンピック記念青少年総合センター(1989)、大阪府立大型児童館ビッグバン(1993)、姫路自動車検査登録事務所(2001)、大阪府立子ども自立総合支援センター(2002)、グランドメゾン白壁櫻明荘(2005)、京都市宇多野ユースホステル(2005)です。図面などは用意できず、説明不足のところがあり、反省しきりです。

学生の頃からの興味のひとつに永遠性のようなものがあり、最近ではつぎの言葉の周りを回っております。億劫須臾(おくこうしゅゆ)。禅の大燈国師の言葉。孫引き。億劫は宇宙的なほどに限りなく長い時間をいい、須臾はほんの数刻をいう。文章は以下のとおり。

億劫相別れて、須臾も離れず。尽日相對して、刹那も對せず。



まず二人対座している情景があり、一方は死者かもしれない、何億年も別れているが、しかし、しばらくの間さえ離れていないというのである。解釈はお互いが真理の中に溶けてしまえば、いつも会っているのと同じだということらしい。別な二人はひねもす相対座していながら、じつは一瞬といえども相対していない。真理を共有していないため、かりそめにすぎないというのである。

これに乗って、世界をみれば、別の風景が見えてきます。過去と現在、生と死の境さえあいまいになり、歴史に温もりや人柄を感じることもあれば、だれにも会わなくても会っていることになります。これを、大悟などせずに、無意識に、寝ぼけまなこで、行き来する。それが、500年くらいでできれば、理想なのですが。



建築美術工芸同人

座かんさい